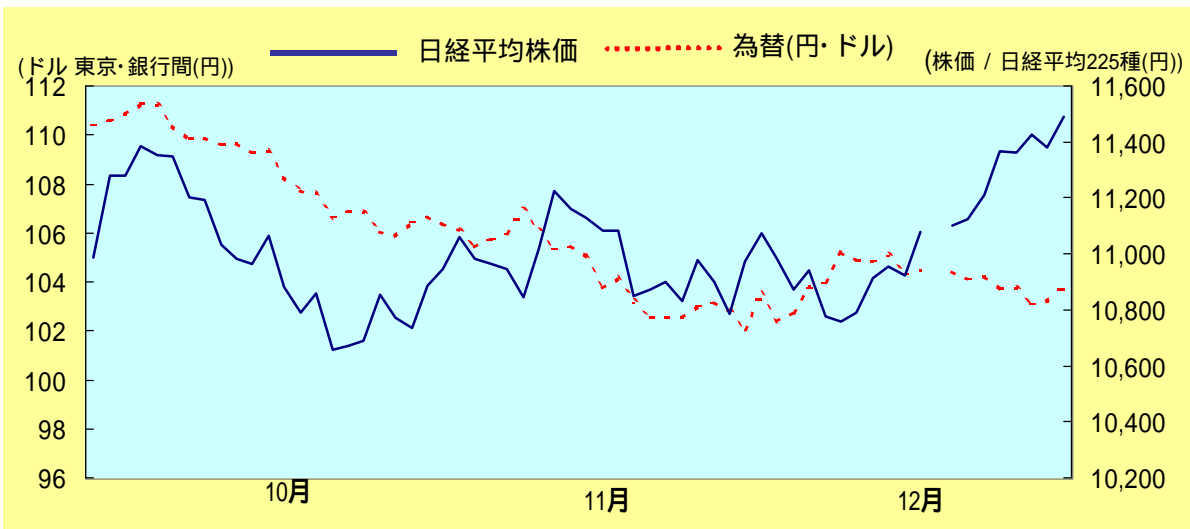


景気動向調査のまとめ

調査期間:平成16年10月~12月

大分みらい信用金庫では、3カ月毎に「中小企業景気動向調査」を実施しています。

株価と為替の動き



調査内容

平成16年10~12月期の業況 / 平成17年1~3月期の業況予想

今回の調査実施時期

平成16年12月初旬

調査先数

大分市、別府市、挾間町、日出町の事業所185先

調査先業種別内訳

製造業	25先	小売業	55先	卸売業	19先
サービス業	59先	建設業	15先	不動産業	12先

調査方法

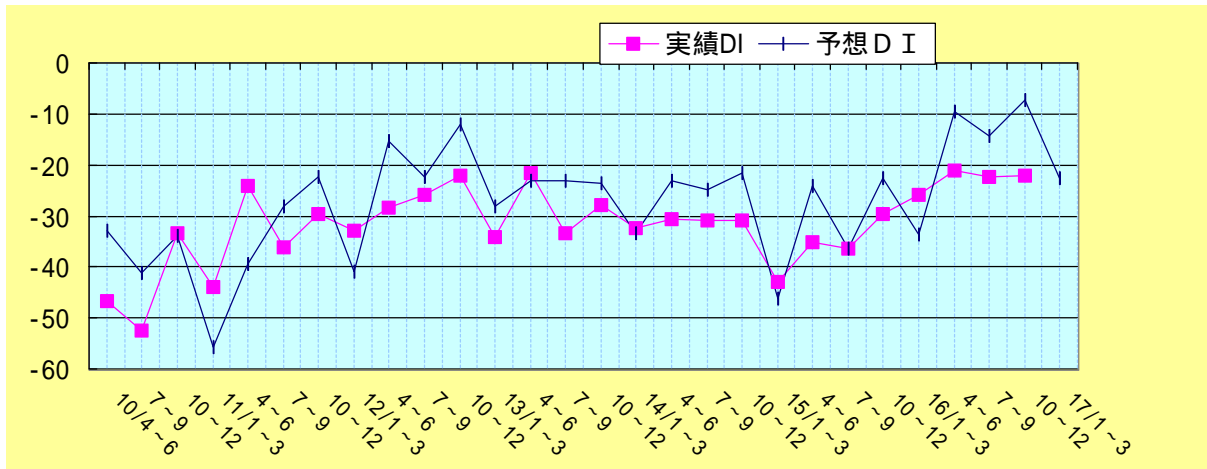
面接・聞き取りによる感触調査

分析方法

各質問項目で、「増加」(上昇)したとする事業所の全体に占める割合と、「減少」(下降)したとする事業所の割合との差(判断DI)にて分析しています。

県内経済概況

業況判断・実績DI / 予想DI値推移



業種別天気図

	総合	製造業	小売業	卸売業	サービス業	建設業	不動産業
10～12月期実績	22.2	28.0	32.7	5.3	16.9	13.3	41.7
1～3月期予想	22.7	28.0	38.2	0.0	20.3	0.0	16.7

表の見方						
	DI:25以上	DI:15～24	DI:0～14	DI: 1～ 14	DI: 15～ 24	DI: 25以下

10月～12月の県内経済概況

(当金庫景気動向調査まとめ)

10月～12月の県内企業の景況感を表す総合業況DIは、22.2となり、依然としてマイナス数値であったものの、前期比では0.1ポイントの上昇となり、前年同期比では7.3ポイントの上昇となった。また、業種別では、卸売業が前年同期比68.5ポイントの大幅な上昇となる一方、建設業が前年同期比13.3ポイントの低下となった。なお、その他の製造業、小売業、サービス業、不動産業では横ばい、もしくは若干の上昇となった。1月～3月の総合業況予想は22.7で、今期比0.5ポイントの下降見通しとなっている。

県内経済情勢報告(平成17年1月)

(財務省九州財務局 大分財務事務所報告より抜粋)

県内経済は、一部に弱さもみられるものの、緩やかな回復の動きが続いている。

- ・個人消費は、総じて持ち直しの動きが弱く低調。
- ・設備投資は、前年を上回る見通し。
- ・生産活動は、一部に弱い動きがあるものの高水準で推移。
- ・雇用情勢は、ほぼ横ばいで推移。

- ・企業利益は、通期では増益の見通し。

このように、県内経済は、一部に弱さもみられるものの、緩やかな回復の動きが続いている。先行きについては、総じてみると緩やかな回復の動きが当面は続くものと見込まれる。

業種別景況

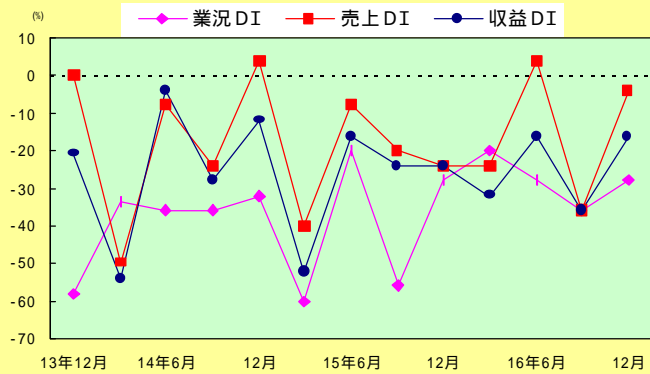
製造業

景況

業況DIは 28.0で、前期比8.0ポイントの上昇、前年同期比は横ばいとなった。一方、売上DIは 4.0で、前年同期比20.0ポイントの上昇、収益DIは 16.0で、同8.0ポイントの上昇となった。

来期(1~3月)の見通し

業況DIは 28.0で、今期比横ばいとなった。また、売上DIは 20.8で、同16.8ポイントの下降、収益DIは 25.0で、同9.0ポイントの下降となっている。



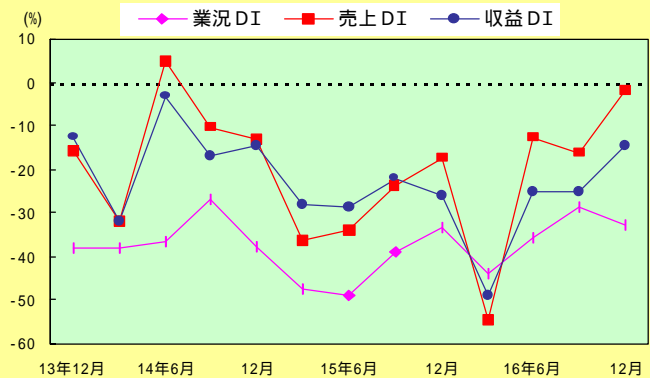
小売業

景況

業況DIは 32.7で、前期比4.1ポイントの下降、前年同期比0.6ポイントの上昇となった。また、売上DIは 1.8で、前年同期比15.4ポイントの上昇となった。また、収益DIは 14.5で同11.4ポイントの上昇となった。

来期(1~3月)の見通し

業況DIは 38.2で、今期比5.5ポイントの下降となった。また、売上DIは 21.8で、同20.0ポイントの下降、一方、収益DIは 7.9で、同6.6ポイントの上昇となっている。



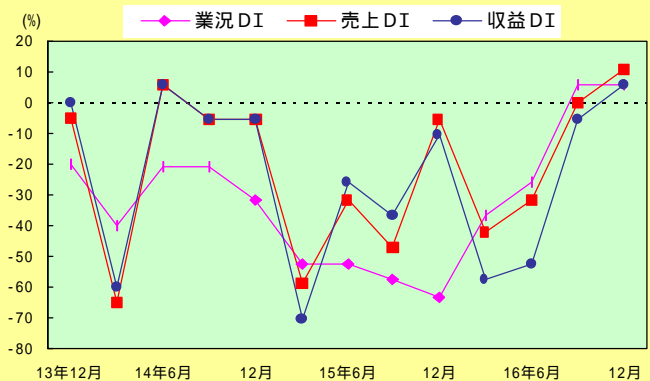
卸売業

景況

業況DIは5.3で前期比は横ばいとなったが、前年同期比では68.5ポイントの大幅上昇となりプラスに転じた。また、売上DIは10.5で、前年同期比15.8ポイントの上昇、収益DIは5.3で、同15.8ポイントの上昇となった。

来期(1~3月)の見通し

業況DIは0.0で、今期比5.3ポイントの下降となった。また、売上DIは0.0で、同10.5ポイントの下降、一方、収益DIは10.5と同5.2ポイントの上昇となっている。



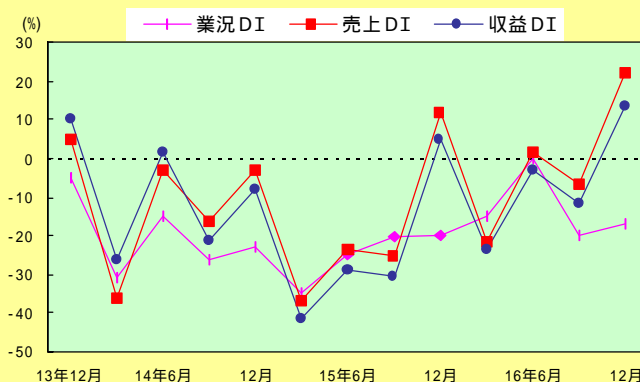
サービス業

景況

業況DIは 16.9で、前期比3.1ポイントの上昇、前年同期比3.1ポイントの上昇となった。また売上DIは22.0で、前年同期比10.3ポイントの上昇、収益DIは13.6で、同8.6ポイントの上昇となった。

来期(1~3月)の見通し

業況DIは 20.3で、今期比3.4ポイントの下降となった。また、売上DIは1.7で、同20.3ポイントの下降、収益DIは 1.7で、同15.3ポイントの下降となっている。



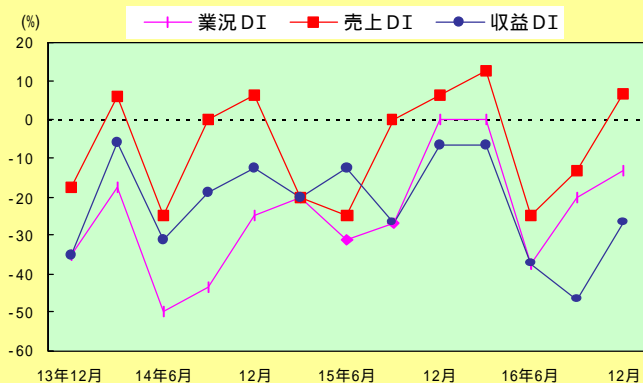
建設業

景況

業況DIは 13.3で、前期比6.7ポイントの上昇、前年同期比13.3ポイントの下降となった。一方、売上DIは6.7で、前年同期比0.4ポイントの上昇、収益DIは 26.7で、同20.4ポイントの下降となった。

来期(1~3月)の見通し

業況DIは0.0で、今期比13.3ポイントの上昇となった。また、売上DIは0.0で、今期比6.7ポイント下降、収益DIは 26.7で、今期比横ばいとなっている。



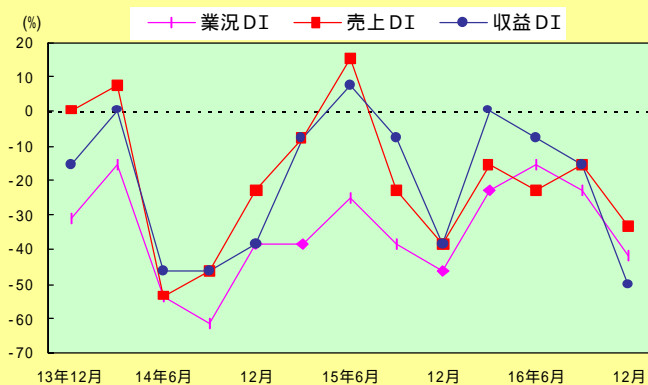
不動産業

景況

業況DIは 41.7で、前期比18.6ポイントの下降、前年同期比4.5ポイントの上昇となった。また、売上DIは33.3で、前年同期比5.2ポイントの上昇となった。一方、収益DIは50.0で、同11.5ポイントの下降となった。

来期(1~3月)の見通し

業況DIは 16.7で、今期比25.0ポイントの上昇となった。また、売上DIは0.0で、同33.3ポイントの上昇、収益DIは 8.3で、同41.7ポイントの上昇となっている。



設備投資の動き

(複数回答・1先3項目以内選択)

種 類	10月～12月期	1月～3月期
機械・設備の新・増設	3	0
機械・設備の更改	10	4
事務機器	3	1
車両	4	3
事業用土地・建物	6	6
その他	3	3
設備投資なし	142	148

経営上の問題点

上位5項目(複数回答・1先3項目以内選択)

1	売上の停滞・減少	93
2	同業者間の競争の激化	83
3	利幅の縮小	61
4	大手企業との競争の激化	32
5	原材料高	15

当面の重点経営施策

上位5項目(複数回答・1先3項目以内選択)

1	経費節減	112
2	販路の拡大	77
3	宣伝・広告の強化	30
4	商品の充実	26
5	情報力の強化	22

DI 数値表

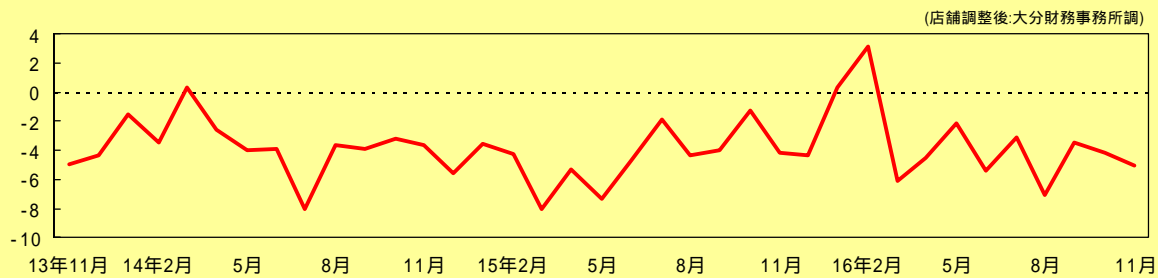
		総合	製造業	小売業	卸売業	サービス業	建設業	不動産業
業 況	10月～12月実績	22.2	28.0	32.7	5.3	16.9	13.3	41.7
	1月～3月予想	22.7	28.0	38.2	0.0	20.3	0.0	16.7
売 上	10月～12月実績	5.4	4.0	1.8	10.5	22.0	6.7	33.3
	1月～3月予想	8.7	20.8	21.8	0.0	1.7	0.0	0.0
受 注 残	10月～12月実績	22.5	12.0	***	***	***	40.0	***
	1月～3月予想	20.5	20.8	***	***	***	20.0	***
施 工 高	10月～12月実績	13.3	***	***	***	***	13.3	***
	1月～3月予想	6.7	***	***	***	***	6.7	***
収 益	10月～12月実績	7.0	16.0	14.5	5.3	13.6	26.7	50.0
	1月～3月予想	7.8	25.0	7.9	10.5	1.7	26.7	8.3
販 売 価 格	10月～12月実績	4.3	4.0	7.3	5.3	0.0	40.0	33.3
	1月～3月予想	7.6	8.3	3.6	5.3	8.5	13.3	33.3
仕 入 価 格	10月～12月実績	21.6	28.0	30.9	10.5	18.6	33.3	16.7
	1月～3月予想	7.1	20.8	1.8	15.8	3.4	20.0	8.3
在 庫	10月～12月実績	16.8	12.0	16.4	21.1	***	21.4	16.7
	1月～3月予想	7.3	0.0	9.1	0.0	***	14.3	16.7
資 金 繰 り	10月～12月実績	15.7	36.0	21.8	15.8	0.0	13.3	25.0
	1月～3月予想	15.8	20.8	20.0	10.5	1.7	33.3	41.7
残 業 時 間	10月～12月実績	4.4	8.0	9.1	5.3	8.8	6.7	16.7
	1月～3月予想	3.3	8.0	3.6	5.3	1.8	6.7	8.3
人 手 状 況	10月～12月実績	8.7	4.0	9.1	0.0	13.8	0.0	16.7
	1月～3月予想	2.7	4.0	1.8	15.8	3.4	0.0	33.3
前年同期比売上高		23.2	36.0	32.7	10.5	11.9	33.3	16.7
前年同期比収益		27.6	40.0	41.8	15.8	15.3	26.7	16.7
前年同期比販売価格		2.7	***	1.8	5.3	***	***	***

主な経済指標の動向

大規模小売店舗売上高

11月の県内の大規模小売店舗(22社98店舗)の総売上高は184億75百万円で、店舗調整後では前年同月に比べ5.1ポイント減少となった。品目別では、衣料品が前年同月比11.3ポイント減、食料品が同1.1ポイント増、その他の商品が同5.3ポイント減となった。業態別にみると、百貨店および専門店(9社14店舗)は前年同月比6.7ポイント減、スーパー(13社84店舗)は同3.9ポイント減となった。

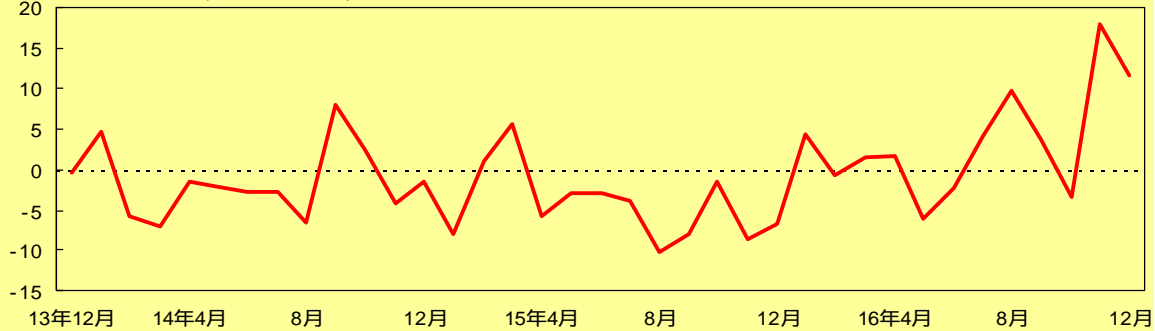
(%) 大規模小



新車販売台数

12月の登録車と軽四輪車合計の新車販売台数(総合計)は4,690台、前年同月比11.5ポイントの増加となった。このうち、普通乗用車は前年同月比2.1ポイント増、小型乗用車は同15.7ポイント増、軽乗用車は同8.9ポイント増となっている。

(%) 新車販売台数(前年同月比)



有効求人倍率

11月の県内の有効求人倍率(季節調整値)は0.77倍で、9~11月は横ばい推移となった。なお、全国平均は0.92倍となっている。

(倍) 有効求人倍率



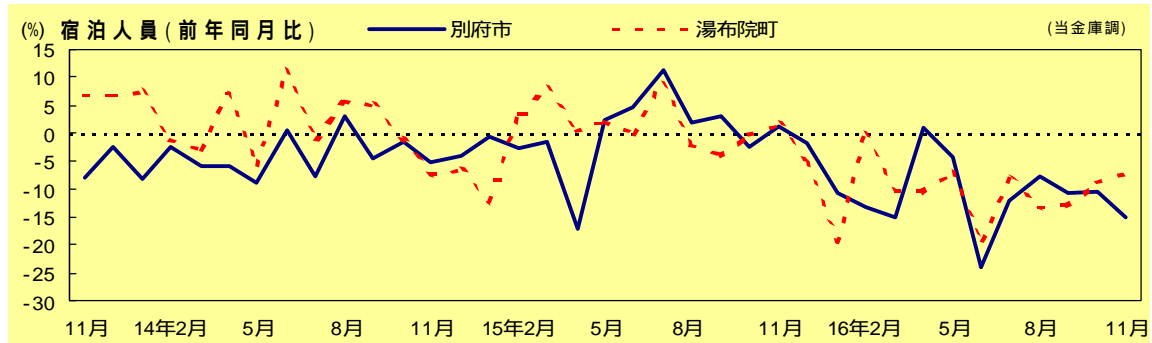
新設住宅着工戸数

11月の県内の住宅着工戸数は859戸で、前年同月比37.7ポイントの増加となった。うち持家が278戸で同0.7ポイントの増加、貸家が507戸で同67.3ポイントの増加、分譲(マンション・建売)が70戸で同89.2ポイントの増加となっている。



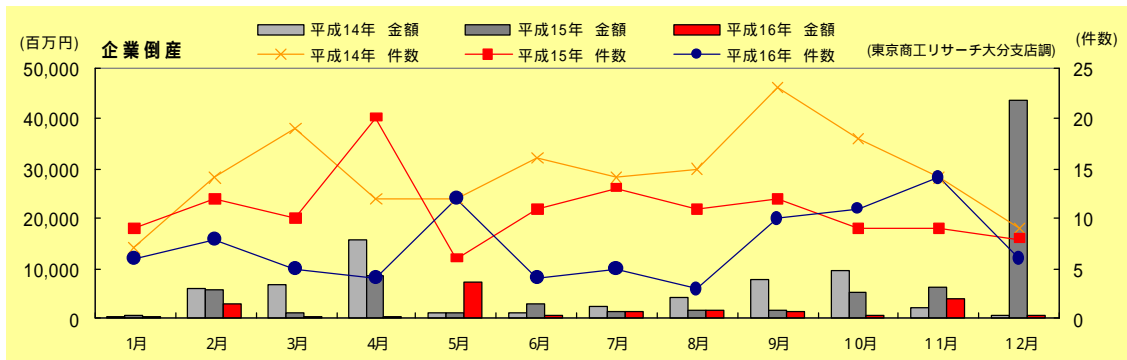
観光動向

観光客宿泊動態は、9月は別府市内で前年同月比10.8ポイントの減少、湯布院町で同12.8ポイントの減少。10月は別府市内で同10.3ポイントの減少、湯布院町で同8.8ポイントの減少。11月は別府市内で同14.9ポイントの減少、湯布院町で同7.3ポイントの減少となった。



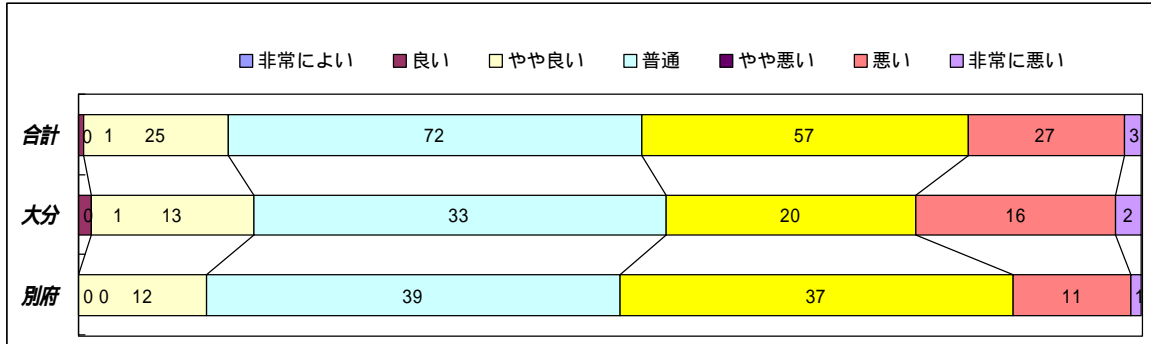
企業倒産状況

東京商工リサーチ大分支店によると、県内の平成16年の倒産件数は88件、負債総額は216億6千8百万円。業種別では1位建設業34件、2位サービス・その他16件、3位小売業14件、4位卸売業13件、5位製造業と運輸・通信各4件の順。原因別では、販売不振が63件で最多、赤字累積と回収難などを合わせた不況型倒産が70件であった。

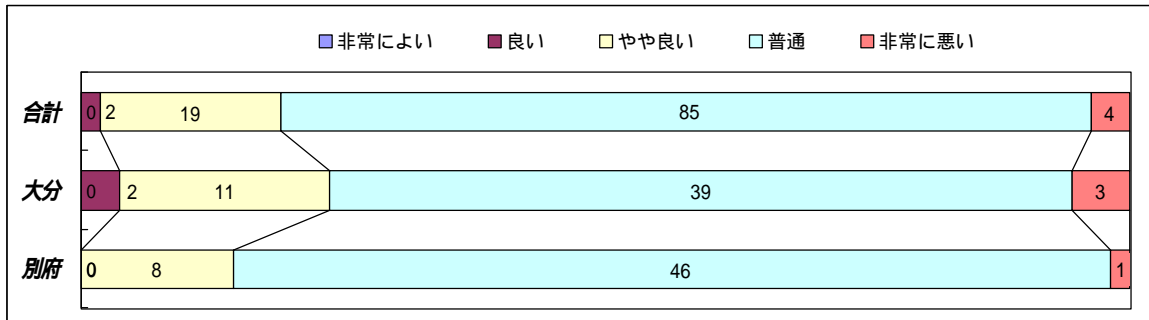


平成17年度の経営見通し

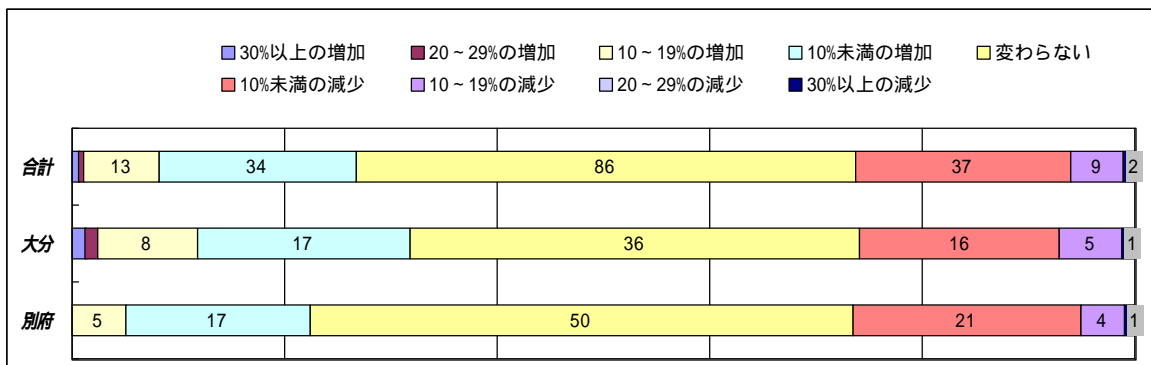
問1.貴社では、平成16年の日本の景気をどのように見通していますか。下記の中から1つだけ選んでお答え下さい。



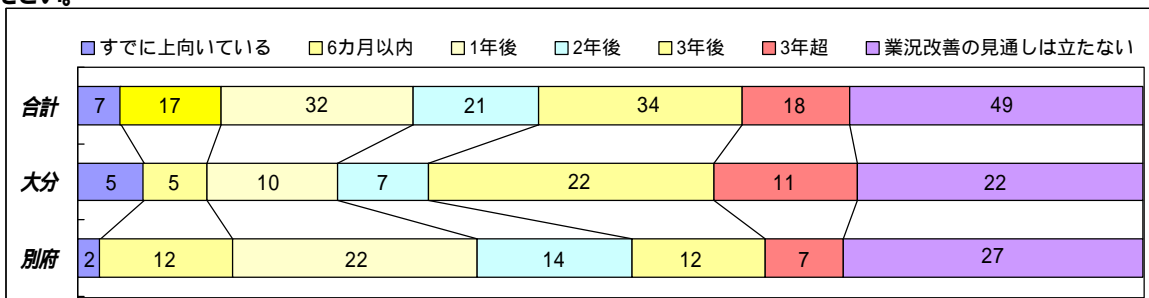
問2.貴社では、平成16年の貴社の業況(景気)をどのように見通していますか。下記の中から一つだけ選んでお答え下さい。



問3.平成16年において貴社の売上額の伸び率は、平成15年度に比べておおそどのくらいになると見通していますか。下記の中から1つだけ選んでお答えください。



問4.貴社では、自社の業況が上向く転換点をいつ頃になると見通していますか。下記の中から1つだけ選んでお答えください。



問5. 昨今、原油等の原材料価格の上昇傾向が顕著となっていますが、これによる貴社のコスト上昇はどの程度ですか。次の1～5から1つ選んでお答え下さい。また、そのコスト上昇分をどの程度、販売価格(サービス業は料金価格、建設業は請負価格)の値上げ(価格転嫁)にて対応していますか。次の6～0から1つ選んでお答えください。

